



	INF	REF	子ども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
8月	666	463	474	9	9	1,621	1,689	43	207	192	119	540	4,411
累計	3,325	2,301	2,242	45	42	7,955	7,793	253	1,023	673	590	2,784	21,071

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📄 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

- 175.9 奈良県桜井市の大神神社のおおみわの Web サイト <https://oomiwa.or.jp/jinja/kamigatari/> (2022.10.22 確認)「三輪山の神語り」「1. おだまきの糸」に掲載されている図画の情報が無い。古事記の三輪山伝説に登場する活玉依姫を描いたものと思われるが、出所(作者・表題・作成年代等)が記載されていない。

所蔵している大神神社関連資料にあたり、『大神神社』(中山和敬/著 大神神社/編 学生社 2013) p.87に「三輪明神縁起絵巻」の「神光照海の図」が、また『大神神社』(三好和義/ほか著 淡交社 2004)に「三輪明神縁起絵巻」(平澤定人/画)の「少彦名神との対面」(p.84)や同絵巻の「三輪山に神鎮まる」(p.85)等の図が掲載されていることを確認したが、探している図画についての情報はなかった。大神神社広報室に確認したところ、探している図画は「三輪明神縁起絵巻(上下卷子)」(平澤定人/画 1967)の一部「おだまきの糸」の場面であり、この絵巻は1968(昭和43)年 大神神社に奉納されたものである。同場面の一部を掲載した例はあるものの、同場面、また絵巻全体を掲載した出版物はないとの回答を得た。

- 703.1 マーク・トビー (MARK TOBEY) の絵をみたい。

レファレンス協同データベースに同様の事例があり紹介したが、さらに絵が大きいものをご希望だったため、『西洋美術作品レファレンス事典 絵画篇 19世紀印象派以降』(日外アソシエーツ、紀伊國屋書店(発売)2005) p.589-590のトビー・マーク (Tobey, Mark 1890-1976) の項を参照。15の作品の図版索引があり、うち『世界美術大系 講談社版 第22巻 アメリカ美術』(ジョン・I・H・バウアー/[ほか]編著 講談社 1964) p.72-73に掲載の「大地をはなれる」(1952 白黒)、「電光」(1944 白黒) を提供。

- 919.5 頼山陽の書いた詩で、「蒙古来」「檀浦行」を見たい。書き下し文(訓読)や現代語訳、解説、特に成り立ちがわかるとよい。

「蒙古来」は『頼山陽詩抄』([頼山陽/著], 頼成一/訳註 伊藤吉三/訳註 岩波書店 1990) p.302に収録されている。「初稿は十句より成つて居たが、推敲を重ねて定稿とした」と附記あり。『頼山陽詩選』(頼山陽/著 揖斐高/訳註 岩波書店 2012) p.314-318に山陽18、9歳の頃に「元史を読む」という題で七言古詩を作ったが、文政十年(49歳)の時に改作し「蒙古来」の題で『日本楽府』中の一編にしたとあり。

「檀浦行」は『江戸漢詩選 下』(揖斐高/編訳 岩波書店 2021) p.192-199に収録あり。原詩、訓読と詩の出典(底本)、詩体、韻字、語注、現代語訳と補足的な解説あり。『頼山陽詩選』(頼山陽/著 岩波書店 2012) p.78に山陽自身がこの詩の韻法について記した文章あり。また、『江戸詩人選集 第8巻 頼山陽 梁川星巖』(岩波書店 1990) p.26-34に「この詩には初稿、

二稿と二種の未定稿が残されていて、大幅な改定が施されている」とあり。また詩の冒頭に他にはない部分が記載され、初稿の末尾に付いていたという識語についても記載があった。

調べ 調べて
やぶ知らず

GIVE UP 事例 2件

ご存知の方はご教授下さい。

I/D0 市川市宮久保白幡神社の、1950年ごろ伐採した神木の当時の写真を探している。

「袖掛けの松」が昭和25年3月に道路拡張のため伐採されたとの記録は、『市川の伝承民話』（市川民話の会／編集 市川市教育委員会 1992）p.104や「広報いちかわ2019年5月4日号「歴史と文化の散歩道75」」<https://www.city.ichikawa.lg.jp/pr/2190504/series20190504.html>（2022.10.12確認）などに多数あるが写真はない。『市川風土記 市民の郷土史読本』（市川ジャーナル社 1973）p.191「袖掛松の碑」、『市川・浦安の昭和史』（安藤操／[ほか]編 千秋社 1995.11）p.92「宮久保の「袖掛けの松」跡（昭和50〈1975〉年頃）として碑と切り株の写真がありこれらを提供したが、切り倒される前の写真は発見できなかった。

910.26 梶井基次郎と新古典主義を代表する画家ドミニク・アングルの関係・影響に関して言及している文献はないか。（梶井基次郎の『檸檬』（角川書店 2013）にはp.11に「とうとうおしまいには日ごろから大好きだったアングルの橙色の重い本までなおいっそうの堪え難さのために置いてしまった」とある）。

『梶井基次郎』（安藤靖彦／著 明治書院 1996）、『評伝梶井基次郎 視ること、それはもうなにかなのだ』（柏倉康夫／著 左右社 2010）、雑誌『日本文学』1965年14巻1号p.18-24「梶井基次郎「檸檬」（〈特集〉文学教材研究）」（相馬庸郎）https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihonbungaku/14/1/14_KJ00010058183/article-char/ja/2022.10.12（確認）に檸檬とアングルの本の色や重さの対比、アングルの画集の洋書としての効果等についての解説はあるが、梶井基次郎とアングルの関係や影響に関して書かれている文献は発見できなかった。

🔍他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
288.9	半旗の由来について	⇒『日本大百科全書 9』（小学館 1986）国旗の項内の[国旗掲揚法]『半旗』p.406に「一説に、半旗の上の旗竿の部分は、死者の見えない旗のためにあけておく場所だという。」との記述がある。
E	縁日のでてくる絵本を探している。	⇒『わにわにのおでかけ』（小風さち／ぶん 山口マオ／え 福音館書店 2007）、『えんにち』（五十嵐豊子／さく 福音館書店 2017）、きんぎょのおまつり』（高部晴市／[作] フレーベル館 2000）、『おっきょちゃんとかっぱ』（長谷川摂子／文 降矢奈々／絵 福音館書店 2012）を提供。
E	ミャンマーの絵本を探している。民俗舞踊やポル・ポト派の兵士が出てきた。	⇒ポル・ポト派とあるように、ミャンマーではなくカンボジアの絵本だった。『スイレンの花のように 平和をつなぐカンボジアの踊り子』（パスカル・ルメートル／作・絵 たかのゆう／監訳 長井佑美／訳 汐文社 2019）を提供。
E	ひとりぼっちのためきの子が、一緒にピクニックに行くために森の友だちに変身する、という絵本を探している。20年位前を見た。	⇒『みんなでピクニック』（彩樹かれん／作・絵 ひさかたチャイルド 2001）を木更津市より取り寄せて提供。
P	ホテルが音楽会に行くのに首かざりがなくて遅れる、という紙芝居か絵本を探している。	⇒『すてきなおんがくかい ホテルのはなし』（古味正康／作・画 教育画劇 1991）を印西市より取り寄せて提供。ホテルではなくカエルが落とした首飾りをゲンジボタルが見つげ出している。